令和８年度 文京区立礫川小学校 授業改善推進プラン〈６年生〉

	現状分析	具体的な授業改善策
国語	・説明文では、段落の内容を整理することに課題が見られる児童もいる。また、文章の前後のつながりを読み取ることができず、内容を間違って捉えてしまうことも多い。 ・漢字５０問テストの結果は、個人差が大きく見られる。ノートやワークシートでは、習った漢字を正しく使うことに課題が見られる。 ・物語文の学習では、登場人物の心情や相互関係について捉えることが苦手な児童が見られる。	・文章を読み取る際は、日頃から中心となる文章を意識させて読み取らせることが必要である。文章の中から必要な情報を抜き出したり、重要な語句を見付けて筆者の主張を要約したりして、課題を克服できるようにする。また、接続語の効果についても随時確認していく。 ・宿題への取り組み方や漢字を学習する習慣を見直すことで、新出漢字の習熟を図る。 ・小グループで登場人物の心情を考えさせたり、意見交換したりする時間を多く設定し、意欲的に登場人物の心情や相互関係を考えられるよう工夫する。
社会	・歴史に興味をもつ児童が多く、教科書の資料や映像資料から意欲的に情報を読み取ろうとする姿が見られる。 ・歴史分野の学習では、興味をもって取り組める児童と、情報量が多く苦手意識をもっている児童とで能力の差が大きい。 ・政治分野の学習では、時事的なことに日頃から興味をもって生活していて、学習内容と実生活をつなげて考えられている。 ・世界の時事に興味をもっており、意欲的に探究しようとする姿が見られる。	・様々な資料を掲示し、その資料から読み取れることを分析して、多面的に考えられるようにすることが大切である。今後の学習においても、生活に関わる様々な情報を掲示することで児童の興味関心を高めていく。 ・歴史の学習では、出来事や事件をなぜそのようなことが起こったのか原因と結果を合わせて指導する必要がある。歴史上の出来事に関して、原因を小グループで意見交換させ、児童が互いに学び合う時間を設定し意欲を引き出す。 ・自ら課題を設定し、まとめる調べ学習の時間を多く設定していく。
算数	・意欲的に学習に取り組む児童が多い。 ・立式や計算はできても、問題文や資料などを適切に読み取り、場面を考えて判断することや、自分の考えを文章等で表現することに課題がある。 ・分数のかけ算やわり算などの計算問題については、およそ定着が図れているが、分数の倍の学習においては、立式をする際に数直線を活用することが難しい児童が多く見られる。	・文章題を扱う際に、分かっていること、問われていることを明確に読み取れるようにするとともに、解答を導き出す道筋を発表やノートに記述するなど、自分の言葉等で表現する活動を多く取り入れていく。 ・立式をする際に数直線を繰り返し活用することで、数直線の利点を実感できるようにしながら倍の考え方の理解を深めていく。

	・一部児童は解答について、根拠を明らかにして説明することができていない児童が多く見られる。	・中学校で学ぶ「証明」やプログラミングの基本など、根拠を明らかにし、筋道立てて説明することが今後の学習に繋がることを、日頃から意識して指導する。
理科	・ものの燃え方や植物の成長について学習したが、どの児童も比較実験の手法を理解し、必要な実験を行うことができる。 ・自分なりの考えをもち、ノートに書いたり、友達と意見交換したりすることができる。 ・実験の「結果」と、「考察」の違いを明確にして指導をする必要がある。違いを理解できた児童が増えてきたが、引き続き指導を続ける必要がある。	・なぜそのような実験を行うのか、その理由を、根拠を明確にして説明できる力を指導していく。 ・正解だけでなく多様な意見を抽出した上で、検証のために実験を行うようにする。 ・今後も結果と考察の違いについては明確にして指導していく。 ・動画や ICT を使用した指導を、適宜取り入れていく。
音楽	・一人一人が課題意識をもち、意欲的に学習に取り組む姿が見られる。 ・発声に気を付けて歌ったり、リコーダーの音色を意識して演奏したりする姿が見られる。音楽表現に対する思いや意図をもつことは、まだ十分ではない面もある。 ・楽曲の曲想を感じ取りながら鑑賞することができる。楽器の音色の特徴や曲想の変化に気付き、味わって聴くことができる。 ・積極的に器楽の練習を重ねる児童が多く、友達と教え合いながら演奏の仕方を工夫している。技能面で個別支援を必要とする児童への手立てが課題である。	・さらに主体的に活動に取り組むことができるように、様々な体験を学習計画に取り入れる。 ・曲にふさわしい表現について、知識や技能を活かしながら工夫し、このように表現したいという思いや意図がもてるようにする。 ・鑑賞や音楽づくりでは、友達と交流しながら考えを深めていけるようにする。 ・音楽づくりの活動では、個人やグループで思考する場面を設定し、表現する能力を高めていけるようにする。 ・リコーダーのタンギングや運指、息の強さ、音色など、個別に指導したり友達と教え合ったり等工夫し技能を高めていく。器楽の学習では、様々な楽器に触れる機会を設け、興味関心や技能が高まるようにする。
図画工作	・友達の活動や作品に非常に興味があり、よく鑑賞し、それを活かして活動をしている。 ・自分の表したいイメージになるように、試行錯誤をしながら意欲的に表そうとする姿勢が多く見られる。	・相互鑑賞の場を工夫し自分の見方や感じ方を深めることができるようにする。 ・それぞれの思いに合った活動ができるよう児童がテーマや材料、表現方法を自由に決定する題材を多く設定する。また思いを次々に表していけるよう、場の設定を工夫する。
体育	・考えて運動し、自己や仲間の課題に気付き、アドバイスや協力をして、より良く運動しようとしている。 ・技能面で差はあるが、運動に対して意欲的に取り組んでいる。 ・振り返りでは、ワークシートを用いて記入させているが、書く際	・課題を解決するためのヒントとなる資料を提示し、活用させる。 ・ICT 機器を活用し、自己や仲間の動きを視覚的に分析し、課題を見付けられるようにする。 ・運動量の確保や場の工夫を行い、技能に課題のある児童への手立てを講じる。 ・ワークシートを書く際の視点を明確に提示しておき、意識して学習

	の視点に関する指導が必要である。	に取り組むようにする。
道徳	・道徳的価値について様々な教材を通して、自分のこととして捉えたり、主人公と自分を重ねたりして、主体的に取り組む姿が見られる。 ・自分の考えをもとに話し合ったり書いたりする学習では、他の児童の意見を受け入れたり真剣に聞こうとしたりする姿に差がある。 ・出来事を多面的に捉えることを難しく感じている児童がいる。	・感動、共感、批判的に教材に関わらせることで、多面的に物事を考えさせるよう工夫する。そのためにも、対話的な活動や掲示物、ＩＣＴ資料を充実させ、身近な教材を取り上げて自らの考えを深めさせる。 ・教材に向き合い、自らと主人公を重ねたり、自分のこととして捉えたりして、課題に向き合っていくことが大切である。その際は、友達の意見を認め、受容的に捉えられるよう促していく。 ・教師から具体例を出したり、問いかけを個別にしたりすることで、様々な角度から物事を考えられるようにする。
総合	・体験したことについて、見やすさを意識してパワーポイントにまとめる力はついてきている。 ・参考資料や文献の扱いについては指導が必要である。 ・タブレットは、資料の検索やグラフの作成に活用した。資料をまとめる際に、メディアリテラシーの感覚の指導が必要である。	・様々な資料のまとめ方を実践させる。 ・２学期には、様々な方へのプレゼンテーション経験を通して、資料の見せ方や発表の仕方をブラッシュアップする。また、５年生にプレゼンテーションを実施することで、相手を意識したまとめ方を学ばせる。 ・著作権や肖像権といったルールを指導し、正しく資料を扱えるようにする。 ・各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、さまざまな事象を多角的に俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方について考えられるようにする。
外国語	・チャンツに合わせて体を動かし、歌を歌う児童が多い。その一方、恥ずかしさであったり、発音の仕方が分からなかったりして苦手意識をもっている児童も多く、能力差が大きい。 ・楽しんで外国語の授業に取り組んでいる様子があり、意欲的に参加している。 ・聞くことに関する活動では、音声として聞き取れているが、それをアルファベットに表すことに課題が見られる。	・電子黒板に資料（絵や写真等）を掲示し、身近な物と関連させて楽しみながら、覚えられるようにする。そのためにも、教室環境を整え、学習した内容の文法や単語を掲示し、振り返りしやすくする。また、興味をもって英語を発音できるようにするために、引き続き、チャンツや歌う時間を設ける。 ・苦手意識をもつ児童に対し、教師からの声掛けやアドバイスを徹底する。
家庭科	・５年生での学習内容を踏まえた授業を行い、達成度を確認した。 ・授業内容に関心を持ち始めた姿勢が多く見られるようになり、態度も落ち着いてきている。	・調理実習や衣服実習は家庭科室で行い、安全に気を付けて実習している。 ・２学期はエプロン製作に取り組んでいる。